

日本語と日本文学

第 21 号

飛鳥川の淵瀬……………杉浦 清志……(1)
——古今集九三三番歌の成立と受容——

『新勅撰和歌集』と後鳥羽院……………永田 初枝……(12)
——雑歌を中心として——

日本語のヴォイスの体系とプロトタイプ……………佐藤 琢三 …(左1)

単独形式化モダリティ……………金 東郁 …(左12)

疑問表現における「の」の機能の一側面……………牧原 功 …(左22)
——前提との関わりを中心に——

転換を表す接続詞「さて」「ところで」「では」をめぐって
……………甲田 直美 …(左31)

ハズダの意味と用法……………田村 直子 …(左43)

平成 7 年 6 月

筑波大学国語国文学会

投稿規定

一、投稿論文は三十枚程度

一、原稿〆切は毎年二度、二月末日および八月末日。

一、原稿送り先

305 茨城県つくば市天王台一―一―

〒筑波大学文芸・言語学系事務室内

『日本語と日本文学』編集委員会

投稿案内

昭和六十一年総会で『日本語と日本文学』誌の年二回発行が決まりました。これは創刊当初に計画しました最小発行回数をようやく実現できたものであります。

学会機関誌というまでもなく、学外のOB、学内の教官および学生の三者が一体となって、当該学問に貢献しうる学問的成果を公表してゆく媒体として存在するものがあります。従いまして、増刊されました本誌の一層の充実、以前にも増してこの三者の構成員の熱意に負うところが多大であ

ります。本誌の価値を高め発展させてゆくためには、これら構成員から質の高い論文の投稿を仰がねばなりません。構成員、とりわけ学外のOBの皆様の積極的な御協力を願う次第です。

投稿は「投稿規定」により、また投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。

編集後記

『日本語と日本文学』第二十一号をお届けいたします。今回は、いずれも力作ぞろいかと思いますが、分野としては日本語学分野の論文が多くなりました。他分野の積極的な投稿をお待ちしております。

さて、御承知のように、本誌の学的水準を維持することだけでなく、発行を支える財政的な基盤も会員の皆様の御協力如何にかかっております。これからどうぞ本誌のためにお力添えをお願いいたします。

(坪井美樹)

平成七年 六月 二十 日印刷
平成七年 六月 二十 日発行

〒 305 茨城県つくば市天王台一―一―
〒 筑波大学 文芸・言語学系内
編集・発行 筑波大学国語国文学会

代表者 桑 原 博 史

印刷所 ニッセイエプロ株式会社

Tel 〇二九八(五一)七六五二